中　学　校

平成２４年度

教育研究員研究報告書

美　　術

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅳ　研究の構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅴ　研究の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

　1　研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

　2　検証授業（①～⑤）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅵ　研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

　1　生徒の変容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

　2　研究のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

Ⅶ　今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

研究主題

小・中学校の連続性を考慮し、
生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業づくり

Ⅰ　研究主題設定の理由

国立教育政策研究所は、平成２１年度に、「特定の課題に関する調査－小学校図画工作・中学校美術－」を実施した。本調査の結果報告書では、中学生の「美術の学習に関する生徒の意識」について、「美術の学習が好きである、大切であるという意識をもっている生徒は約６～７割、美術の学習は生活を明るく豊かにすることや心を豊かにすることに役立つという意識をもっている生徒が約７～８割、美術がふだんの生活、将来の生活や社会に出て役立つという意識をもっている生徒は約５割であった。」と示している。この結果から、「多くの生徒が美術の学習が生活を明るく豊かにすることや、心を豊かにするために役立つと理解し、美術の授業が好きだ、大切であるという肯定的な意見をもっているが、半数の生徒は、美術の学習が普段の生活や社会に出て役立つという意識をもっていない。」という現状が把握できる。

しかし、例えば、生活を美しく豊かにする働きをもつものや、目的や機能と美が調和したものなどが私達の身の回りに多々存在しているように、美術は普段の生活や社会に不可欠かつ大切なものである。美術の学習において育成する資質や能力を身に付けさせるためには、このことへの理解が重要であり、美術が私達の生活に必要であり、役立つものであると感じる生徒を育てる取組を行うことが必要である。

また、高等学校における芸術（美術）は選択科目のため、一部の中学生にとっては、中学校での授業が、最後の美術の学習の場となる可能性が高い。卒業を節目に美術の学習から離れていく生徒のことを考えると、中学校美術科で「美術を愛好する心情を育てる」ことは、特に重要であると考える。

また、今回の学習指導要領改訂の基本方針には、「子どもの発達の段階に応じて、各学校段階の内容の連続性に配慮すること」と示されている。小学校図画工作科と中学校美術科の教科目標は、学校段階によって表現の仕方が違うが、育成する資質や能力は同じである。「生涯美術を愛好する心情」を育てることについても、中学校三年間だけでなく、系統的に小学校段階からの経験や、学習内容の連続性に配慮して行われなければならない。

しかし、実際に中学校美術科の授業では、必ずしも小・中学校の学習内容の連続性を考慮した取組が行われているとはいえない現状がある。

このことから、私達は、小・中学校９年間の学習を系統的に捉え、各題材による目標や学習活動の内容の連続性、児童・生徒の学年段階の特徴を大切にし、自校の生徒の小学校図画工作科での経験に留意しながら指導を行うことで、「生涯美術を愛好する心情」が育まれると考えた。図画工作科で培われた資質や能力を土台に、中学校美術科で育成する資質や能力を身に付けさせながら、「美術を愛好する心情を育てる授業」を意図的に行うことで、生徒が将来大人になっても、生活の中での美術の働きについて理解し、美術が自分達の生活に役立っていると考える生徒を育てることができると考え、研究主題を「小・中学校の連続性を考慮し、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業づくり」と設定した。

Ⅱ　研究の視点

本研究では「生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる視点」から「小・中学校の連続性に考慮した授業の工夫」を行った。「小・中学校の連続性に考慮し、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるような授業づくり」は、各学校の実態や年間指導計画が異なることを考慮し、どの学校でも活用できるような手だてを検証し、提案する。

１　「小・中学校の連続性に考慮する」について

「小・中学校の連続性に考慮する」とは「小学校で育成された資質や能力を中学校でより深めること」を意味している。同じ題材を意図的に設定して行うということではなく、生徒の経験を踏まえた上で小学校の図画工作科で育まれた資質や能力を把握し、それが中学校美術科においてどのようにつながり、深めることができるのかを系統的に捉えて授業の指導案を作成し、手だてを工夫する。

２　生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる」について

本研究では「生涯にわたり美術を愛好する心情を育てること」を、生涯を通して「自然や生活の中での美しいものや美術の文化遺産、作品を大切にすること」や「日常生活の中での美術の働きについて理解し、積極的に美的なよさや美しさを取り入れて、心豊かな生活を創造していこうとする意欲や態度を育成すること」と捉えた。

「生涯にわたり美術を愛好する心情」は表現と鑑賞の幅広い活動の中で相互に関連し、育まれるものである。ここで言う表現とは、「内発的に主題を設定したり、目的や機能、使用する人の気持ちなどを考えたりすることで発想・構想し、自分なりの表現を行うこと、創造する喜びを味わうこと」であり、鑑賞とは、「様々な美術作品や文化遺産等のよさや美しさを味わい、理解すること」である。

このような学習活動を意図的に行うことによって、生徒に「生涯にわたり美術を愛好する心情」が育まれると考えた。

Ⅲ　研究の仮説

「生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業」を上記の視点に基づき、表現と鑑賞の幅広い活動の中で、小・中学校の連続性を考慮しながら授業実践することにより、次のような生徒の変容が期待できると考え、本研究では下記の３点を目指す生徒の姿とした。

【本研究で目指す生徒の姿】

- 美しいものを大切にし、生活の中で美術の表現や鑑賞に親しもうとする姿
- 生活環境を美しく飾り、構成し、心豊かな生活を築こうとする姿
- 自然のもつ造形的な美しさや美術の文化遺産、作品のよさや美しさを積極的に味わおうとする姿

Ⅳ　研究の構想図

本研究を一つの図に示すと、次のようになる。

生涯にわたり美術を愛好する心情

目指す生徒の姿

- 美しいものを大切にし、生活の中で美術の表現や鑑賞に親しもうとする姿
- 生活環境を美しく飾り、構成し、心豊かな生活を築こうとする姿
- 自然のもつ造形的な美しさや美術の文化遺産、作品のよさや美しさを積極的に味わおうとする姿

表現と鑑賞の幅広い活動を通して、小・中学校の連続性を考慮した授業を行う

中学校で育む資質や能力

- 美術の創造活動の喜びを味わおうとする態度
- 豊かに発想や構想をする力
- 創造的な技能を働かせてつくりだす能力
- 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫を感じとり、味わう能力

小学校で育まれた資質や能力

- つくりだす喜びを味わおうとする態度
- 形や色などを基に表したいことを考える力
- 自分の思いを具体的に表現できる力
- よさや美しさを感じ取る力

生徒の実態

Ⅴ　研究の内容

１　研究の方法

（１）生徒の実態を踏まえながら、中学校美術科の授業の実態について課題点をあげ、国立教育政策研究所から出されている調査等のデータを参考にし、中学校美術科の授業の在り方を探った。

（２）中学校美術科の授業の在り方を考える上で出てきた課題や現状を基にして、研究主題を探った。

（３）課題点の改善と生徒の変容のために、研究主題に迫るための研究仮説及び研究構想図を立てた。

（４）研究主題及び仮説、構想図に基づき、「小・中学校の連続性を考慮した授業」と「生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業」の二つの視点を意図的に設定し、実践的に検証するための授業を行った。

検証授業を行うに当たっては、次のことを踏まえ、指導計画を作成した。

生徒への聞き取り調査の実施

小学校図画工作科で育まれた資質や能力を、中学校美術科の授業でどのように伸ばしていくかを考えるため、各所属校で生徒に、小学校図画工作科の授業で行った題材やその題材を通して身に付いた力に関する聞き取り調査を実施した。

小学校の図画工作科担当教員への聞き取り調査の実施

各所属校の生徒の出身小学校の図画工作科担当の教員に、検証授業の対象となる生徒が経験した題材や材料・用具、身に付けた力を聞き取り、生徒がどのような造形体験をし、どのような力を身に付けてきているかを把握するよう努めた。

指導計画及び指導案の工夫

生徒及び小学校図画工作科担当の教員への聞き取りに基づいて小・中学校の連続性を捉え、生涯にわたり美術を愛好する心情を育成するための授業について、立案を行った。

①　「小・中学校の連続性を考慮した授業」については、生徒及び小学校で図画工作担当の教員への聞き取り調査で把握した実態を基に、小学校図画工作科で身に付けてきた力を中学校美術科でどう深めていくかを中心に考え、指導計画を作成した。その際、小学校での経験による差が生じないよう、題材の連続性ではなく、身に付けてきた資質や能力の連続性で考えることとした。さらに、中学校美術科として身に付けさせたい資質や能力を確認し、題材や提示する資料、指導形態やワークシートの工夫等を行った。

②　「生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業」については、小・中学校の連続性を考慮しながら、美術が日常生活の中でどのような役割を果たしているかを理解し、心豊かな生活に結び付く意欲や態度を育成する題材を選定し、指導計画を作成した。

③　指導案の題材観・指導観は「小・中学校の連続性を考慮した授業」「生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業」の二つの観点から記述した。「小・中学校の連続性を考慮した授業」では、小学校図画工作科で身に付けた力を中学校美術科でどのように伸ばしていくか。また、それらを達成するため、授業でどのような指導の工夫をしていくかについて具体的に記述した。「生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業」では、美術を愛好する心情を育てるための題材設定の理由や、そのための具体的な指導の工夫につ

いて記述した。

指導計画上の「指導上の留意点」には、小・中学校の連続性を考慮したり、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てたりするための指導上の工夫について記述した。

（５）検証授業実施後は、授業中の教員の観察による記録や、鑑賞カードや振り返りカード等のワークシート、作品等から、生徒の変容を確認することで各検証授業が手だてとして有効であったか否かを検証し、各授業における成果と課題を見出した。

（６）研究全体を振り返り、研究仮説で設定した生徒の変容について検証し、本研究の成果と課題としてまとめた。

２　検証授業

検証授業①

対象：第１学年　授業者：北区立赤羽岩淵中学校　教諭　小林　明博

１　題材名

「あ、こんなところに〇〇が！」　Ａ表現（１）ア・イ　Ｂ鑑賞（１）ア

２　題材の目標

見慣れた環境にある様々な形に着目しながら写真で表現する活動を通して、ものの見方や感じ方を広げ、日常にあふれる形の面白さや見方の変化による新たな発見に気付くことで、美術を愛好する心情を養う。

３　研究主題に基づく題材観および指導観

	小・中学校の連続性を考慮した授業	生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業
題材観	小Ａ表現（１）で高学年は「場所等の特徴を基にした活動」を経験しており、場所に進んでかかわり、場所を基に発想する力を身に付けている。 ↓ 中校内の環境を活動場所として設定することで、小学校で得た経験や力を発揮しながら、主題を生み出すことにつなげる。 小Ａ表現（１）（２）、Ｂ鑑賞等あらゆる場面でものを見立てる活動を経験しており、形や色彩の特徴を基に発想したり、構想したりする力を身に付けている。 ↓ 中形や色彩を基にイメージを捉え、ものの見方や感じ方を更に広げることへとつなげる。	我々が生活する環境には様々な形があふれている。しかし、それらは当たり前にあるものとして感じており、その形のよさや美しさ、面白さに改めて気付く機会は少ない。本題材では、意図的に校内にある様々な形に着目しながら、日常とは違った見方で写真撮影することによって、普段目にするものや風景が面白くなる等、新しい発見をすることができる。 本題材で培ったものの見方や感じ方は、今後の表現や鑑賞活動にもつなげていくことができる。美的な価値を生活の中で楽しみながら、新しい視点を発見する自分に出会い、友達の作品のよさや美しさを感じ取る力を身に付けることで、美術を愛好する心情を育むことができると考え、本題材を設定した。
指導観	小Ａ表現（１）造形遊びで身に付けた、場所等の特徴を基にて発想し、つくる力、 ↓ 中主題を生み出す力を一層伸ばすため、場所等の特徴を基にした活動を振り返る機会を設け、活動場所を美術室に限らず、校内の環境を活動場所とし、形を探る時間と場所を与える。 小Ａ表現（１）（２）等で身につけた、形や色彩の特徴を基に発想したり、構想したりする力 ↓ 中形や色彩を基にイメージを捉え、ものの見方や感じ方をさらに広げることへとつなげるため、図画工作科で経験してきた見立てることの活動等を振り返る機会を設け、活動中は、見方を変えてみる工夫や、面白い形を提示する、また友達の作品を提示する等、具体的な物を示しながら指導する。	・デジタルカメラを用いることで、日常とは違った視点でものを捉え、また、自由に何枚もの写真を撮れることから形の面白さを存分に味わうことができる。対象を様々な視点で捉えられるよう、構図等について導入時、指導する。 ・個での活動を中心としながらも、班で行動することにより、互いの作品への意見交換を行いながら、自他のよさを認め合い尊重する場面を大切にする指導を行う。 ・作品鑑賞の時間を多めに取り、自分を認めてもらったり、友達のよさを見付けたりする場面を通して、ものの見方や感じ方を広げるような指導を行う。

4　題材の評価規準

	ア　美術への関心・意欲・態度	イ　発想や構想の能力	ウ　鑑賞の能力
題材の評価規準	①デジタルカメラの表現に興味をもち、意欲的に活動している。 ②自他の作品鑑賞に積極的に参加し、ものの見方や感じ方を広げようとしている。	①対象を見つめ感じ取った形を何かに見立てることで、表したいものを思い付いている。 ②主題を基にデジタルカメラの特性を考え、構図を工夫して表現している。 ③題名をつけることで形の特徴等を基に対象のイメージを捉えている。	①自分や友達の作品から、その面白さや美しさを見出している。 ②作品や対象を鑑賞することを通して、ものの見方や感じ方を広げている。

5　材料・用具

デジタルカメラ（４人で１台）、ワークシート、パソコン、プリンター、筆記用具

6　指導計画（４時間扱い）　★第１・２・３時は美術室及び校内、第４時はパソコン室で行う

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入　第1時	・形を見立てることの面白さや写真表現の楽しさを味わうために、教科書の資料等を鑑賞する。 ・対象を様々な視点で捉えられるよう、デジタルカメラの使い方を知り、様々な構図について知る。 ・美術室内で見方を変えて発見したことを写真に撮る。	・本題材に興味をもてるような資料を提示する。 ・生徒から小学校図画工作科担当教員からの聞き取り調査を踏まえ、小学校で行った「ものを見立てる活動」や「場所等の特徴を基にした造形遊び」「デジタルカメラを使った活動」について振り返る場面をつくる。 ・写真の構図について説明しながら、ものには様々な見方があることに気付かせる。 ・意欲的に活動できない生徒に対して、具体的なものを示しながら、活動の楽しさを味わえるような指導を行う。	ア① イ①
展開　第2時～第3時	・校内で見方を変えて発見したことを写真に撮る。 ４人班で行動し、指定された範囲の校内を自由にまわる。 ・自他を認め、ものの見方や感じ方をひろげるため、デジタルカメラをテレビにつなぎ、友達の撮った作品を鑑賞する。 ・鑑賞したことを生かしながら、再度、校内で見方を変えて発見したことを写真に撮る。	・場所の特徴を基に構想できるようにするため、できるだけ校内の多くの場所を活動場所とする。 ・４人班で行動することで、個々での活動を大切にしながらも、班での意見交換を行い、互いの作品のよさを認め合い活動を進めることを提案する。 ・活動中は、見方を変えてみる工夫や、面白い形を提示する、また友達の作品を提示する等、具体的な物を示す。 ・作品を鑑賞する中から、共有したい工夫等を全体で確認し、その鑑賞を生かした写真が撮れるようにする。	ア① ア② イ① イ② ウ① ウ②
まとめ　第4時	・自分が撮った写真をインデックスにし、プリントアウトしワークシートに貼る。 その写真の中からお気に入りの１枚を選び、プリントアウトし、題名をつける。 ・自他を認め、ものの見方や感じ方を広げるため、プリントアウトした友達の作品を鑑賞する。	・他の鑑賞者に表現意図が伝わる題名を付けるよう促す。 ・授業後完成作品を美術室廊下に展示し、他学級の生徒も鑑賞できるようにする。	ア② イ③ ウ① ウ②

7　資料

＜ワークシート（一部抜粋）＞

○小学校の図工の時間で行った「場所等の特徴を基にした活動」について思い出してみよう。

○構図の工夫
対象を接写して見る。対象を上下左右回転させて見る。
対象を高い位置から見る。対象を低い位置から見る。
対象の一部分を見る。対象と別のものの組合せを見る。

○学習の記録

	今日の授業で発見したこと
／（　）	
／（　）	
／（　）	
／（　）	

○自分が撮った写真

□ □ □ □ □
□ □ □ □ □
□ □ □ □ □

小学校で行った「場所等の特徴等を基にした造形遊び」について記述するところを設け、小学校の活動を思い出し、本題材につなげられるよう工夫を行った。

構図の工夫例を示し、様々な視点で対象を捉えるようにする工夫を行った。

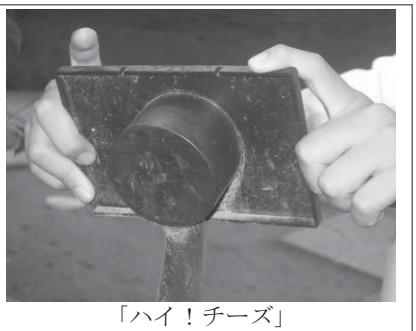
毎時間の振り返りを記述するところを設け、毎時間の終わりに記入することで、新たな発見や気付きを振り返ったり、班での活動や鑑賞を通して自他のよさを認められたりするような工夫を行った。

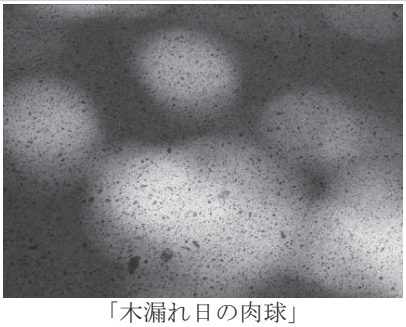
自分が撮った写真をインデックスにしてプリントしたものを貼り付けるところを設け、自分の作品を振り返り、改めて日常にあふれる形の面白さや見方を変えると新たな発見があることに気付くような工夫を行った。

＜生徒の作品例＞

「床に住むたいくつなヒヨコ」

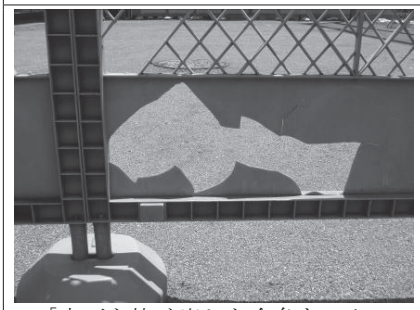
「遠くを見つめる顔」


「ハイ！チーズ」


「木漏れ日の肉球」

「木から出てくるとかげ」

「ちょい悪！！」


「水面を抜け出した金魚ちゃん」

「麦わら帽子？しぼるやつ？」

「三角定規」

検証授業②

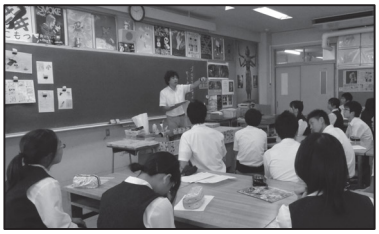
対象：第２学年　授業者：墨田区立向島中学校　教諭　奥井　伸

１　題材名　表現「プロダクトデザイン、やってみよう！」Ａ表現（２）ウ　Ｂ鑑賞（１）

２　題材の目標

日常生活の中で私たちが手に取り、購入している様々な製品。それを購入する時、私たちは何に従ってその選択を行うのか。本題材では実際にプロダクトデザインを経験することにより、生活に役立つ美術の働きについて理解することで、美術を愛好する心情を養う。

３　研究主題に基づく題材観および指導観

	小・中学校の連続性を考慮した授業	生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業
題材観	小自分の表現したいことを見つけて表すことや自分の表したいことや用途などを考えながら表すことを身に付けている。 ↓ 中自分の考えをまとめ表現すること、また他人の考えを学ぶことで、生徒自身が自分になかった視点や考えを持ち、新たな価値観をつくり出す力を伸ばす。 小感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉えることを身に付けている。 ↓ 中造形的な美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わう力を伸ばす。	授業を通し身近に感じる美術の視点に気付くことで、生涯に渡って美術を愛好する心情を育む。 自分たちの住む地域について調べることを通して、地域の産業を活性化させるような製品を考える。またその機能性やデザインの美しさ、実際に物づくりに携わる人の思いなどを感じ取る。 グループ内で製品開発会議を行い、製品についてのプレゼンテーションを行うことで、生徒自身が自分になかった視点や考えをもち、新たな価値観をつくりだせるようにする。以上の視点より、小学校図画工作科を通して身に付けた力を中学校美術科でさらに伸ばすのに非常に有効な題材であると考える。
指導観	小 Ａ表現（２）で身に付けた、感じたこと、見たこと、伝え合いたいことを表したいことを見つけて表すこと。 ↓ 中 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え表現させる。 小 Ａ表現（２）で身に付けた形や色彩、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途を考えながら、表し方を構想して表すこと。 ↓ 中伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想をさせる。 小 Ａ表現（２）で身に付けた表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表すこと。 ↓ 中 用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから美しさなどを考え、表現の構想をさせる。	・柔軟な発想を前提に「できる、できない」ではなく、「欲しいもの、あったらいいもの」を発想、構想できるよう、促す。 ・自分のアイディアを大切にしつつ、他人のアイディアを受け容れられる寛容な心の育成を心がける。 ・グループ活動を通し、個別の活動に入ることで互いの意見を交換しやすい環境を作り出す。 ・互いに批評することで他者とのものの見方や感じ方の違いに気付かせる。 ・日常生活の中で、自分たちの考え方や感性がいかに美術とつながっているかを感じ取らせる。 

4　題材の評価規準

	ア　美術への関心・意欲・態度	イ　発想や構想の能力	ウ　創造的な技能	エ　鑑賞の能力
題材の評価規準	製品開発の楽しさに関心を持ち、積極的に活動を行っている。	用途や使う人のことを考えながら、機能性やデザインを考えられている。	意図にあったよさや美しさを、自分なりに表現し、個性豊かな企画書を作り出している。	他者の作品を見て、よさや美しさを感じ取り、考えや視点の違いなどに気付くとともに、他者の表現から、その意図を感じ取り、自分なりの価値観をもって批評し、見方や感じ方を広げている。

5　材料・用具

学習用プリント類、参考用資料、筆記用具

6　指導計画（10 時間扱い）

	学習活動	指導上の留意点	評価
第1時～第2時　導入	・生活の中で見かける様々な製品を改めて意識し、自分達ならどのような目的でどのような製品が提案できるかということを考える。	・授業内で生徒に聞き取りを行い、本単元に関した授業の経験の有無を問い、指導に生かす。 ・地域の活性化につながるような製品の提案を促す。 ・生徒の興味を引く資料の提示を行う。提示するタイミングには細心の注意を払い、創作活動の活性につなげさせる。	ア イ
第3時～第8時　展開	・グループごとに製品のテーマを決め、パソコンや資料を見て、製品の企画書を提案する。 ・調べ学習を行う。 ・個人の企画を完成させグループ内で発表し、お互いに良いと感じる部分などについて意見を出しあう。	・自分で設定したテーマに基づき、グループ内での討論が活発になるように声かけを行う。 ・「人の意見をしっかり聞く」「決して批判はしない」「冷やかさない」など机間指導時に声かけを行う。 ・お互いの意見を認め合い、グループ活動を進める中で、新たな発見ができるような声かけを行う。	ア イ ウ エ
第9時～第10時　まとめ	・グループ内でプレゼンテーションを通し、クラス全体で鑑賞する。 ・プレゼンテーションから、製品のアイディアや表現の工夫を考え、作品に込められた表現意図や工夫を感じとる。	・完成したワークシートは自由に見られるように展示スペースなどを効果的に利用し、他者理解、自己肯定感を高める。	ア ウ エ

7　資料

・小学校で行った「自分のイメージ」を表す活動を振り返らせた。また、自分の気持ちや経験との関連を想起させる項目をワークシート内に作った。

・企画書用ワークシート内に他人の気持ちになって考えることを促す項目を加えた。また、自分の考えを広く他人に説明するための項目をつくった。

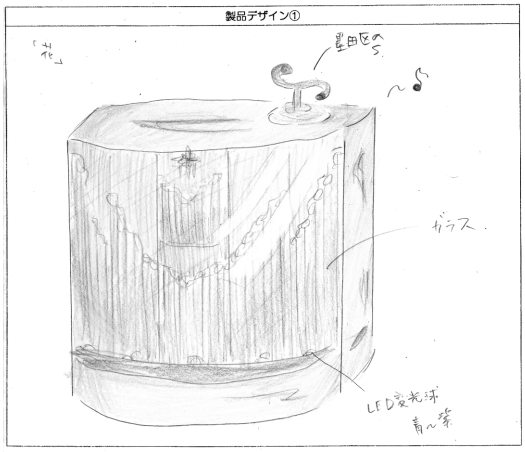
・プレゼンテーション用ワークシートには、自分だけでなく他人の考えを通じて、さらに構想を深められるような項目をつくった。

製品開発　企画書

2年＿組＿番

日用品 部門	製品名称	オルゴール	
製品の価格	1,800 ～ 3200ぐらい 円	価格設定の理由	オルゴールって高いのですよ。
製品の種類（用途）	滝さんの「花」が区歌らしいので、「花」がになります。		

製品デザイン①



区歌を流す、パイプオルガン型オルゴール

製品デザイン②

● 製品のおすすめポイント（100字まで）

・豊田区のトルフォニーホールのパイプオルガンがデザインとなっすためのぜんまいの取手は豊田区のSをモチーフにしてなっています。

● 備考（おすすめポイント以外でなにかアピールするところ）

LED変光球が音楽がなっている間青から紫へ変光します。

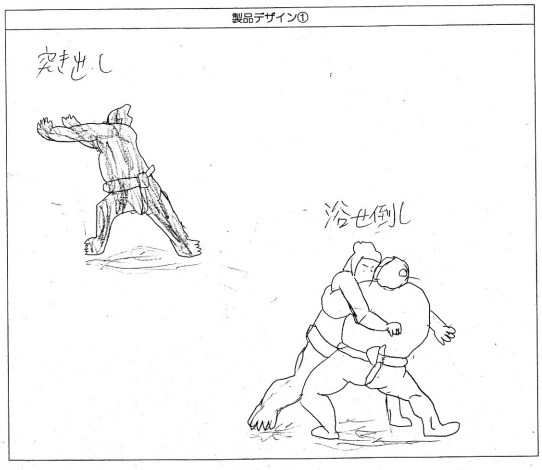
お相撲さん型「技」消しゴム

製品開発　企画書

2年＿組＿番

日用品 部門	製品名称	お相撲さん「技」消しゴム	
製品の価格	200 円	価格設定の理由	手ごろな価格＋リアルさを出すため
製品の種類（用途）	消しゴム		

製品デザイン①



製品デザイン②

● 製品のおすすめポイント（100字まで）

お相撲さんの消しゴムで、相撲の技のかっこうをしています。見るだけで相撲の技がわかるようになるかもしれません。コレクション性があるので買う回数が増えあるたるまで買うというねらいもあります。

● 備考（おすすめポイント以外でなにかアピールするところ）

トントン相撲もできる

検証授業③

対象：第２学年　授業者：立川市立立川第五中学校　教諭　菅野　舞

１　題材名　「絵巻物に親しもう」　　第２学年　Ｂ鑑賞（１）ア、ウ

２　題材の目標

「鳥獣人物戯画」を鑑賞し、墨の線で描かれている動物の擬人化された表現の面白さに触れ、味わい、日本の伝統的な絵画「絵巻物」についてより深くよさや美しさを感じ取りながら、見方や工夫を理解すると共に、現代のアニメーションや漫画と絵巻物とのつながりについて意識することで、美術文化の継承と創造への関心を高め、美術を愛好する心情を養う。

３　研究主題に基づく題材観および指導観

	小中学校の連続性を考慮した授業	生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業
題材観	小B鑑賞（１）イで高学年は、「感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉える」力を身につけている。 ↓ 中「作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合う」ことで、一層、作品を深く鑑賞させる力につなげる。 小B鑑賞（１）アで高学年は、「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみある美術作品、暮らしの中の作品など鑑賞して、よさや美しさを感じる」力を身に付けている。 ↓ 中時代の変遷や美術作品等の特質の視点から鑑賞し、日本の美術文化の継承と創造への関心を高める力を伸ばす。	・「絵巻物」の鑑賞の楽しみ方に触れる機会により、絵画表現形式を学び、見方や工夫について理解を深め、興味や関心を持たせる。 ・動物の擬人化された動きや物語の場面に対して他者と意見を交流することにより、作品などに対する自分の感じたことや作品についての自分の考えを整理し、自分一人では気付かなかった価値に気付かせる。 ・歴史的裏付けや作品の価値について考えさせることで、独自の文化を生み出してきた日本の美術文化のよさを十分に味わい理解させ、日本美術のよさや美しさを感じ、現代のアニメーションや漫画と絵巻物とのつながりについて意識させることが美術文化の継承と創造への関心を高める。 ・動物たちの墨の筆線の強弱、向き、勢いなどで描かれている形からイメージを捉えることで自分らしい見方を育て、自分にしかない価値をつくり出し続ける意欲をもたせる。
指導観	小B鑑賞（１）イで身に付けた感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉える力 ↓ 中表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉える力をさらに伸ばすために、鑑賞形態と作品への視点を変化させ、新しい着眼点で鑑賞できるように指導を工夫する。 小B鑑賞（１）アで身に付けた自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみある美術作品、暮らしの中の作品など鑑賞して、よさや美しさを感じる力 ↓ 中我が国の美術作品など鑑賞して、よさや美しさを感じる力をさらに伸ばすために、時代の変遷や美術作品等の特質や現代のアニメーション、漫画とのつながりという視点にも気付くワークシートの工夫をする。	・提示の仕方を工夫し、擬人化された動物達の動きや場面から豊かに想像を広げながら読み進めることや、絵巻物を右から左へ巻き取りながら読み進める時間の推移による物語の変化や筆のタッチなど表現手法や技法について理解を深めさせ興味や関心を持たせる。 ・グループで活動する場面や全体に発表させる場面を作り、異なった見方、感じ方を尊重する雰囲気をつくる。 ・「絵巻物」の表現形式や方法、制作時代、作者、扱い方、制作理由、現代の漫画に通じる表現などの知識や作品の価値について考えさせることで、日本の美術文化のよさを十分に味わい、理解することで、美術は文字や言葉では表し得ない優れた表現手段、深いコミュニケーション手段であることを認識させる。 ・筆ペンで動物の動きの描写を実寸大でプリントアウトしたもの見たり、重ねたりして写しながら、動物たちの輪郭線や毛並、模様など墨で描かれている線の強弱、向き、勢い、描かれている筆のタッチ、濃淡など表現手法や技法について理解を深め、作者の思いや考えを想像し、現在に至るまで大切に残されてきたかを考えさせ、美術文化の継承と創造への関心を高める。

4　題材の評価規準

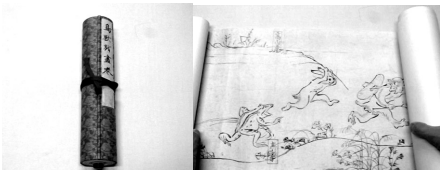
	ア　美術への 関心・意欲・態度	イ　鑑賞の能力
題材の評価規準	①作品の鑑賞を通じて、日本の伝統的な絵画や美術文化の継承と創造への関心を高め、絵巻物の絵画表現形式を知り、見方や工夫について理解を深めようとしている。 ②作品の場面にあった物語やセリフを考えたり、グループで話し合ったり、興味をもって鑑賞している。	①作品に描かれている動物の動きや場面の様子から物語やセリフなどについて味わっている。 ②動物の擬人化された表現の面白さや線で表された筆づかいなど、表現の工夫や美しさから、日本の伝統的な絵画についてを感じ取っている。

5　材料・用具

生徒 … 筆記用具

教師 … 「鳥獣人物戯画」甲巻のレプリカ、図版を実寸大でプリントアウトしたもの、付箋、ワークシート、液晶テレビ、実物投影機、 筆ペン、教科書

6　指導計画（２時間扱い）

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入・展開　第1時	・「鳥獣人物戯画」の一部を鑑賞し、絵巻物の特性について理解する。  ・ワークシートに作品の場面ごとに、「何をしている場面か」、「動物のセリフ」「場面の音」について考える。 ・グループによる話し合い 複数の場面の物語について お互いの意見を伝えあう。 ・グループの発表 ・まとめ 「ワークシート」を記入し、発表	・レプリカの絵巻物や作品の場面ごとに大型テレビなどの視聴覚機器を用いて全員で作品の鑑賞をすることにより、擬人化された動物達の動きや場面から豊かに想像を広げながら読み進めることと、絵巻物を右から左へ巻き取りながら読み進める時間の推移による物語の変化に気付かせる。 ・中学生として新しい着眼点で鑑賞できるように、ワークシートを活用し、全員共通の視点から興味や関心をもって自ら感じ取り味わうようする。 ・図版を実寸大でプリントアウトしたものを友人と見ながら、各自が考えたセリフや物語をグループで話し合わせて、グループごとに全体に発表させる場面を作り、異なった見方、感じ方を尊重する雰囲気をつくる。 ・絵巻物の鑑賞の楽しみ方を体験し、「絵巻物」の表現形式や方法、扱い方、制作時代を理解し、現在に至るまでなぜ大切に残されてきたかを考えさせる。	ア① イ① ア② ア①
展開・まとめ　第2時	・筆ペンで動物の動きの描写を写す。 筆のタッチなど表現手法や技法について理解を深める。 ・教科書を見ながら、作品の時代の変遷や美術作品の特質を知り、再び鑑賞する。 ・まとめ 授業の感想を記入し、発表する。	・動きの面白さや楽しさを味わい、筆ペンで動物の動きの描写を実寸大でプリントアウトしたもの見たり、重ねたりして写しながら、動物たちの輪郭線や毛並、模様など墨で描かれている線の強弱、向き、勢い、描かれている筆のタッチ、濃淡など表現手法や技法について理解を深める。 ・現代のアニメーションや漫画と絵巻物の表現方法とのつながりについて意識させ、日本の美術文化のよさに気付かせる。 ・「筆のタッチ」「作者について」「絵巻物のよさや美しさ」について感想を書き、作者の思いや考えを想像し、現在に至るまで大切に残されてきたかを考えさせる。	イ② ア①

作品協力：茨城県天心記念五浦美術館企画普及課　日本画トランク事業

7 資料

・鑑賞形態を全体、個人、グループ、全体の順にした。

本日の作品

「　鳥 獣 人物戯画　」

①場面

何をしている？
どんな声が聞こえる？
どんな音が聞こえる？

②班ごとに話し合う・黄色の付せん（場面）・青色の付せん（セリフ・音）

班	場面
描かれている内容	

③発表（発表班は全員前に並ぶ）

【　　】班の発表内容について
【　　】班の発表内容について

④感想

他の班の発表について
今回の作品の鑑賞で気づいたこと

考えてみよう！

この絵巻物は何のためにつくられたか。
なぜこの作品が大切にされ、人々から愛されているか。

ワークシートを活用し、同じ場面を全員で考え、全員共通の視点の項目をつくり、興味や関心をもって自ら感じ取り味わえるようにした。

グループで話し合ったことを付箋に書き込み、生徒同士で発表し批評し合い自分の気付かなかった作品のよさを発見する。

項目に「この絵巻物は何のためにつくられたか。」「なぜこの作品が大切にされ人々から愛されているか。」作品鑑賞後に美術文化の継承について考えさせる。

「鳥獣人物戯画」に親しもう②

作品に描かれている動物たちを見てどのように描かれていますか。動物たちの輪郭線や毛並、模様など墨で描かれている線の強弱、向き、勢い、描かれている筆のタッチ、濃淡など表現手法や技法をよく観察して描いてみましょう。

感想

筆のタッチについて

描写を実寸大でプリントアウトしたもの見たり、重ねたりして写しながら、動物たちの輪郭線や毛並、模様など墨で描かれている線の強弱、向き、勢い、描かれている筆のタッチ、濃淡など表現手法や技法について注目させ、筆ペンで描くワークシート

作者について

絵巻物の良さと美しさについて

教科書を見ながら、作品の時代の変遷や美術作品の特質を知り、再び鑑賞し、現代のアニメーションと絵巻物の表現方法とのつながりについて意識させ、日本の美術文化のよさに気付かせる。

検証授業④

対象：第１学年　授業者：中央区立日本橋中学校　教諭　初鹿野　和子

１　題材名

「生活を豊かに　日本橋中から発信しよう」Ａ表現（２）イ、ウ　Ｂ鑑賞（１）ア

２　題材の目標

ユニバーサルデザインの商品を鑑賞し､使う人の立場に立って発想･構想することを通して、人々が心豊かに生活することができるデザインとはどのようなものなのかを考えるとともに、作者の、表現意図や工夫などを感じ取ったり味わったりすることを通して美術を愛好する心情を養う。

３　研究主題に基づく題材観および指導観

	小中学校の連続性を考慮した授業	生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業
題材観	小 Ｂ鑑賞で、小学校５・６年生では、「暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取る力」や「友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現意図や特徴などを捉える力」を身に付けている。 Ａ表現（２）「用途などを考えながら、表し方を構想して表す力」を身に付けている。 ↓ 中 ただ単に鑑賞するだけではなく、造形体験の充実を図りながら、生活を豊かにするユニバーサルデザインについて理解を深め、他者の立場に立ち、生活を豊かにする造形や、美術の働きを理解する力を伸ばしたい。	・ユニバーサルデザインの学習を通して、学習指導要領の改訂で示されている「生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを理解する力」を身に付けることができると考える。 ・様々な作品を鑑賞し、他者の見方や感じ方を知ることによって、生活を豊かにする造形や美術の働きを知ることができる。 ・また、ただ単に鑑賞するだけではなく、造形体験を図りながら、思考したことをプレゼンテーションの形式で発表することを通して、生徒一人ひとりの価値意識が高められ、さらに美術の働きについて理解を深めることができると題材を設定した。
指導観	小 Ｂ鑑賞 「暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取る力」 「友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現意図や特徴などを捉える力」 Ａ表現（２）「用途などを考えながら、表し方を構想して表す力」 ↓ 中 Ｂ鑑賞で身に付けた「感じ取る力」や、「表現意図や特徴などを捉える力」を更に伸ばすために、『他者の立場に立ってどのように工夫されているかなど、美術の働きを考える』ワークシートの工夫や、班での話し合いやプレゼンテーション形式の発表活動を取り入れる。 Ａ表現（２）「用途などを考えながら、表し方を構想して表す力」を更に伸ばすために、『心豊かに生活を送るための作品を発想できるように、使用する対象者の気持ちや状況を考え表現する』ワークシートの工夫や、班での話し合いやプレゼンテーション形式の発表活動を取り入れる。	・「福祉」を考えるデザインは、造形的な要素からだけではなく、相手の立場に立って考える心の教育を展開できる。また、ユニバーサルデザインの商品の造形的なよさや美しさを感じ取り、その必要性や重要性を認識することにより美術を愛好していく心情を育むことができると考える。 ・この題材では、特に鑑賞と表現の一体化を図ったり、ワークシートの活用を行うことで、友達の意見や、班で話し合ったことを、自分の表現に生かしていけると考える。 ・ワークシート作成には工夫が必要であり、特に班の話し合いでは、話す側と受け取る側があるので、それぞれに目標をもち、評価できるようにしたい。また、美意識を高め、作品を幅広く味わえるようにもしなければならないと考える。 ・美術の働きを理解し、生涯にわたり、心で感じたり考えたり、生活を豊かにするために行動し、そのために周りに発信できる力を養うことができるように指導を行う。

4　題材の評価規準

	ア　美術への関心・意欲・態度	イ　発想や構想の能力	ウ　創造的な技能	エ　鑑賞の能力
題材の評価規準	①ユニバーサルデザインについて考察を深め、使う人に対する作り手の思いなどを感じ取ろうとする。 ②よさや美しさに関心を持ち、自分らしくよりよい表現を目指して、創意工夫しようとしている。	使う人の立場や、美や機能性について考え、目的にあった、自分らしい発想や、構想を練ることができる。	ユニバーサルデザインについて考察した上で、自分なりに形等を工夫してデザインすることができる。	①生活の中から生まれる発想や願いなどから、デザインの意図や工夫などを感じ取ることができる。 ②友達の発表を聞き、良いところなどを感じ取ることができる。

5　材料・用具

教科書、ユニバーサルデザインの商品の写真及び映像、実物等の資料、ワークシート、筆記用具

6　指導計画（５時間扱い）

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入　第1時	・事前にユニバーサルデザインの発祥、経緯、よさ等を知り、リサーチについて話を聞く。 ・リサーチしてきたものを班の中で発表し、感じたことや、さらに工夫できる点などを話し合い、ワークシートにまとめる。 ・ユニバーサルデザインの商品をいくつか鑑賞し、感想を発表する。 ・班で話し合ったことを、クラス全体で発表し、良い点などをまとめ、次の時間に行う自分が考えるユニバーサルデザインのアイデアに役立てる。	・本題材に興味を持たせるような資料を提示、ユニバーサルデザインの説明を行い、リサーチする際の注意点を話す。 ・机間指導の際に、どんなところに配慮しているのか、形や色など工夫しているところなどを感想や意見等で出せるようにアドバイスする。 ・配慮しているところ、工夫しているところなどが複数にわたることを理解させる。 ・ユニバーサルデザインについてより深く理解できるようにする。 ・発表の際は声の大きさやわかりやすい説明を心がけるように発表させ、聞く人はメモを取りながら聞くように付け加える。 ・アイデアを考える際に配慮することなどを指導する。	ア ① ア ② エ ① エ ②
展開　第2時～第3時	・ユニバーサルデザインの７原則について話を聞く。 ・自分が考えたユニバーサルデザインのアイデアを班の中で発表し、班員からの感想などを聞き、さらに工夫できるところはないか、ワークシートに構想を練る。 ・デザインが決定したら、プレゼンテーションの準備を行う。	・前時で鑑賞した作品の中から、共有したい工夫等を振り返り、ユニバーサルデザインが障害のある人もない人も、誰もが使いやすいデザインであることを押さえる ・机間指導をしながら、発表や話し合いがスムーズにいかない班や生徒を支援する。 ・形や色等も工夫すると、楽しくなることを指導する。	ア ② イ ウ エ ① エ②

まとめ　第4時～第5時	・プレゼンテーションを行う。 ・発表を聞いて評価用紙にまとめ、商品化して欲しいと思う作品を一つ決める。 ・選んだ作品について発表し合う。 ・全てのワークシートをまとめる。	・前時で鑑賞した作品の中から、共有したい工夫などを振り返る。 ・プレゼンテーションの意図、準備に必要なことを指導する。 ・自分の伝えたいテーマがしっかりと伝わるように工夫することや、聞く人はテーマ・内容・評価をワークシートにまとめながら聞くように指導する。 ・商品化して欲しい作品を選ばせ、選んだ理由も発表させる。 ・作品を美術室廊下に展示し、他学級の生徒も鑑賞できるように行い、さらに学年で選ばれた作品を一つ選ばせる。	ア① ア② エ① エ②

7　ワークシートなど

美術科１学年　豊かな生活を送るためのデザイン　ワークシート２

組　番　名前

福祉とデザインについて考えよう②
こんなものがあったらいいな～　アイデアを考えよう

友だちがリサーチした話を聞いて感じたことをまとめよう

こんなものがあったらいいな

◇形にしてみよう。＊簡単な説明を入れてね

A

B

（2）さらに気づいたことや、考えたこと、こんなものをデザインしてみたい、このようなものが〇〇にとっては必要だと思います！…など考えてことをまとめましょう。

◎次回の課題→班で発表します。

このワークシートは次の授業で提出します。

美術科１学年　豊かな生活を送るためのデザイン　ワークシート３

組　番　名前

福祉とデザインについて考えよう（ユニバーサルデザイン）③
こんなものがあったらいいな～ 友だちの発表を聞いてアイデアをまとめていこう

班の友だちの発表を聞いて、〇工夫しているところ、△ユニバーサルデザインの原則からもっと考えた方が良い点などをまとめよう。

①（　　）〇　　△

②（　　）〇　　△

③（　　）〇　　△

④（　　）〇　　△

〇班で話し合おう。こんな工夫が必要だよね、形は？色は？など、改善した方が良い点や、こんなものがあったらいいな～と思うことを班員でまとめてみよう。

◇形にしてみよう。デザイン決定へアイデアをまとめよう。色鉛筆やカラーペンで色を塗ってもいいよ。

作品の説明♪

（2）さらに気づいたことや、考えたこと、こんなものをデザインしてみたい、このようなものが〇〇にとっては必要だと思います！…など、プレゼンテーションに向けてまとめていこう。

◎次回の課題→考えたデザインを発表しよう。プレゼンテーションの準備をしよう。

検証授業⑤

対象：第２学年　授業者：八王子市立椚田中学校　主任教諭　畠山　真理

１　題材名

「人にとって心地のよい環境をつくろう」～住まい・自然を含む心地よい住環境のモデル制作～
Ａ表現（２）ウ（３）ア、Ｂ鑑賞（１）イ

２　題材の目標

自然や身近な環境の造形的な美しさを味わい、住む人の気持ちや機能、美しさを考えて構想を練り、素材の特徴を生かして心豊かな生活環境を表現し、生活を美しく豊かにする美術の働きを理解することで生涯美術を愛好する心情を養う。

３　研究主題に基づく題材観および指導観

	小・中学校の連続性を考慮した授業	生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業
題材観	小　A 表現（１）で高学年では「材料や場所の特徴などを基に構成し、周囲の様子を考え合わせながらつくる力」を身につけている。 ↓ 中　中学校では表現意図に合う新たな表現方法を工夫し、創造的に表現する力へつなげる。 小　B 鑑賞（１）アで高学年では「暮らしの中の作品のよさや美しさを感じる力」を身にている。 ↓ 中　中学校では自分の部屋や家などの居住空間だけでなく、たくさんの人が暮らす自然や街並みや公共スペースも含めた大きな視点で環境を捉え、生活を豊かにする美術の働きを理解する力を伸ばす。	本題材は住まいや公共・自然などの人にとって心地よい環境を住む人の気持ちや機能、美しさなどの観点から考えて構想を練り、発泡スチロール、スチレンボードなどの土台の上に様々な素材の特徴を生かして、心豊かな生活環境のミニチュアを表現する。生徒には新たな表現方法を見つけ、創造する喜びを味わうことや生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解することで、中学校を卒業しても美術の楽しみ方の視野を広げ、生涯美術を愛好する心情を育むことができると考え、この題材を設定した。
指導観	小　A 表現（１）造形遊びで身に付けた材料の特徴を基に表現する力 ↓ 中　材料の特徴を基に表現する力をさらに伸ばすために様々な材料や用具の特性を生かし、新たな表現方法を工夫できるよう、様々な表現方法の種類を指導する。 小　A 表現（２）で身につけた形や色を通して伝える力 ↓ 中　形や色を通して伝える力をさらに伸ばすために心豊かな生活環境を発想できるよう、住む人の気持ちや機能、心地よく感じる色や形を考えさせて、材料を選ばせる。 小　B 鑑賞（１）アで身につけた暮らしの中の作品のよさや美しさを感じ取る力 ↓ 中　小学校の B 鑑賞（１）アで身につけた暮らしの中の作品のよさや美しさを感じ取る力を伸ばすために「心地よい環境をつくるために形や色彩、材料、光、空間がどのように工夫されているかなどの美術の働き」に気付くようなワークシートの工夫を行う。	本題材は「身近な環境のよさや美しさを味わい、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解し、様々な材料を使って、心豊かな生活環境を表現する力」を身に付けさせ、生涯、美術を愛好する心情を育むことを大きなねらいとする。そのために下記の工夫をする。 ・住む人の気持ちや機能、美しさを考えて描けるよう、順序や条件を記載した「構想カード」を使用し、制作に見通しをもたせる。 ・作品の土台は生徒が負担なく制作できるよう加工しやすい発泡素材を使用する。 ・作品の大きさは上限を決めるが、形は目的意図に応じて制作できるよう、教師側で限定しないようにする。 ・素材の特徴を生かして心豊かな環境が表現できるよう様々な材料を用意する。ただし、生徒の個が生きるように、生徒にも材料を持ち寄らせる。 ・生活を豊かにする機能と美しさを兼ね備えた様々な建築・街並みなどのデザインの鑑賞を行い、生活を豊かにする美術の働きについて知る。

4　題材の評価規準

	ア　美術への関心・意欲・態度	イ　発想や構想の能力	ウ　創造的な技能	エ　鑑賞の能力
題材の評価規準	①「心地よい環境」をテーマに主体的に主題を生み出し、構想を練ろうとしている。 ②　素材の特徴を主体的に生かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。 ③身の回りの環境の造形的な美しさに関心をもち、生活を美しく豊かにする美術の働きについて主体的に理解しようとしている。	①心地よい環境を多くの人に伝えるために、住む人の気持ちや機能、美しさを考えて表現の構想を練っている。	①素材の特徴を生かし、心豊かな生活環境のイメージをもちながら自分の表現意図に合う表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。	①自然や身近な環境の特徴や印象などから作者の生活を美しく豊かにする働きの表現の工夫を感じとり、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解を深めている。

5　材料・用具

学習プリント、鑑賞作品、発泡スチロール、空き箱、木、モデリングペースト、へら、はさみ、のり、電動のこぎり、のこぎり、釘、粘土、粘土板、紙（和紙、色画用紙など）、木工用ボンド、針金、ペンチ、ポスターカラー、その他身の回りにある素材

6　指導計画（８時間扱い）

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 第1時	・　住む人の気持ちや心地よさ、機能を考えてつくられた身近な生活環境を鑑賞する。	・　生活を豊かにする機能と美しさを兼ね備えた様々な建築・街並みなどのデザインの鑑賞を行い、生活を豊かにする美術の働きについて理解する。 ・　心地よい環境をつくるために形や色彩、材料、光、空間がどのように工夫されているかなどの美術の働きに気付くような声がけやワークシートの工夫をする。	ア③ エ①
展開 第2時～第7時	・　住む人の気持ちや機能、美しさを考えて心豊かな生活環境の表現の構想を練る。 ・　様々な素材の特徴を生かして心地よい環境を表現する。	・　住む人の気持ちや機能、美しさを思うように描けるよう、順序や条件を記載した「構想カード」を使用し、制作に見通しをもたせる。 ・　心豊かな生活環境を発想できるよう、使用する者の気持ちを考えさせて、形や色彩を選ばせる。また、住環境だけでなく、公共の施設などの環境も含め、大きな視点で捉えさせる。 ・　素材の特徴を生かして心地よい生活環境が表現できるよう様々な材料を用意する。ただし、生徒の個が生きるように、生徒にも材料を持ち寄らせる。 ・　テーマを伝えやすくするために、作品の中で見せ場と脇役なるところに分けてつくるよう指導する。 ・素材に長短、置く場所に奥行きをつけるなど、変化をもたせ、対比をつけることを指導する。 ・素材の特徴に応じて、線を見せたり、量感を出すと美しく見えることを指導する。 ≪制作全体を通して≫ ・刃物を扱う時の安全指導を行う。	ア① ア② イ① ウ①

まとめ時 第8	・　完成した自分や友人の作品を鑑賞し、作品に生活を豊かにする美術の働きの表現の工夫があることを感じとる。	・　美術がもつ形や色彩が生活を豊かにすることに観点について話し合わせる。 ・　友人同士の作品の作者の生活を美しく豊かにする働きの表現の工夫を感じとるようにワークシートの工夫を行う。	ア③ エ①

7　資料

人にとって心地のよい環境をつくろう

2年　　組　　番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

①　あなたがつくりたい心地よい環境はどんな環境ですか？また、その環境にぴったりのタイトルをつけてみましょう。

心地よい環境とは？：

つくりたい環境のタイトル：

②　①の環境はどんな目的で使う環境ですか？
≪例≫：休憩する、遊ぶ、交流する、四季を感じる、散歩する、花を見る、動物を見る

③　その環境に人が住む・集う時、心地よくなるような色と形、機能を考えてみましょう。

色：

形：

機能：

④　その環境をつくるためにどんな材料を選びますか？

Ⅵ　研究の成果

１　生徒の変容

各検証授業における仮説の検証及び成果と課題は次のとおりである。

検証授業	仮説の検証及び成果と課題
①　あ、こんなところに〇〇が！	生徒のワークシートに「ものを違う視点から見ることにより、様々な発見があり、様々な見方をすることは大切なのだと気付きました。」「いつも見ていたものなのに、遠くから見たり、写真を撮ってみたりすることによって全く新しいものに見えてとても楽しかったです。」等とあり、日常にあふれる形の面白さや見方を変えると新たな発見があることに気付き、自然のもつ造形的な美しさ、作品のよさや美しさを積極的に味わおうとする姿がみられた。 また、「学校の中だけではなく、身近な家等でも探していきたいです。」という意見もあり、日常の学校生活の中でも「これ美術の授業でやった、〇〇みたいだね。」と、美術の授業だけにとどまらない美術の楽しさを感じる生徒も多かった。生活環境を美しく飾り、心豊かな生活を築こうとする姿がみられた。 「カメラの使い方を工夫することで新しい発見をすることができた。」「写真を撮る際、角度や写し方等、カメラの活用法や構図を考えるのも楽しくできました。」のように、デジタルカメラを活用することにより、写真での表現に興味を持ち、意欲的に活動に参加することができた生徒も多い。 また、「班で活動をしたので、色々な発想が出たり、協力ができたりしたと思います。また、班のみんなとの協力や話し合いがとても大事なのだなと感じました。」「他の班の写真を見て、私たちの班では気付かなかったことに気付いていたのですごいなあと思いました。」等、班での活動や鑑賞活動を通して自他を認め合う心情が深まり、美しいものを大切にし、生活の中で美術の表現や鑑賞に親しもうとする姿がみられた。
②　プロダクトデザイン、やってみよう！	事前の聞き取りで私たちが何によって製品（商品）を選び、購入しているのか「今までとくに気にしたことがなかった。」という生徒の言葉が多数見られた。生活と美術が結びついているという考えは生徒の中にあまりなかったようである。しかし単元終了後の振り返りでは「色やかたちの好みは人それぞれである。」と気付き、「友だちのアイディアが商品化されたらすごく買いたいと思った。」など、美しいものを大切にし、生活の中で美術の表現や鑑賞に親しもうとする態度の現れを感じることができた。また、「自分の好みの色やかたちについて深く考えられた。」や「友だちの意見を聞くうちに違うアイディアが出てきた。」、「人にプレゼントを選ぶときは、その人のことをよく考えた上で慎重に選ぶようにしたい。」といった表現からは自然のもつ造形的な美しさや美術の文化遺産、作品のよさや美しさを積極的に味わおうとする意欲や態度も感じられた。生活環境を美しく飾り、構成し、心豊かな生活を築こうとする意欲や態度は少しずつではあるが、授業の後片付けや貸し出した資料の返却の仕方などに現れてきていると感じる。 グループで一つの目標を定め、それに向かって自分の意見を相手に伝えること、お互いの意見に感化され合いながら、美意識を高め合い、より良い意見を導き出すという授業の形態は今後、社会に進出していくにあたって非常に重要な能力を育むことができるのではないかと考えられる。以上が、研究主題である「小・中学校の連続性を考慮し、生涯わたり美術を愛好する心情を育てる授業づくり」を通して感じた生徒の変容である。

③絵巻物に親しもう	「鳥獣人物戯画」の墨の線で描かれている動物たちの面白い表情や動きは、制作時代や表現方法は問わず、生徒の心を惹きつける作品である。作品の事前アンケートで「変」「気持ち悪い」「よくわからない」という第一印象を感じていた生徒も、この検証授業を通して、「かっこいい」「面白い」「すごい」という肯定的な印象の感想になっていた。筆ペンで動物の動きの描写を写す作業により、絵巻物の魅力や墨の線で描かれた美しさを技法や作者の思いなどより一層深く、作品を身近に感じることができていることが生徒の言葉から見えてきた。 ８００年以上前に制作された作品が現代まで大切にされてきたことを考えると、生徒は作品の面白さと「絵巻物」の文字や言葉では表し得ない優れた表現手段や作品の本質のよさを理解していた。このような古いものや祖先から受け継いだものを大切にしようとする生徒の心の変容が、学校、地域、美術文化遺産など生活環境を美しく飾り、心豊かな生活を築こうとする生徒に育つと考える。 普段の生活で直接触れることのないレプリカの絵巻物を、子どもたちが作品のよさや美しさを積極的に味わおうとしていた。また、「鳥獣人物戯画」の墨の線で描かれている擬人化された動物たちの面白い表情や動きに生徒が感情移入しやすい作品であり、このことがグループの活発な話し合いにつながった。また、異なった見方、感じ方を聞き、生徒にこの作品のよさや美しさなど多様な価値に気付く様子がみられた。このように作品に興味関心をもたせ、主体的に鑑賞させることで作品美術の文化遺産、作品のよさや美しさを積極的に味わおうとする生徒が育つと考える。
④ 生活を豊かに　日本橋中から発信しよう	自分にとって作りたいもの、描きたいものを制作することが多かった生徒達が、ユニバーサルデザインの授業を通して、他者の気持ちや立場を第一に考え、話し合いに活発に参加し、友だちの発表にも真剣に耳を傾ける姿や、ワークシートに真面目に書き込んでいた。 生徒の感想 「誰にでも分かる時計で、ボタンを押すだけで分かるのがとても良いと思う。」 「自動販売機の、一番上のボタンを使う飲み物を買いたくても、車いすを使っている人や小さい子どもたちには届かないけれどもボタンの位置が低ければ買いたい飲み物が買うことができる。」 など、単に作品を鑑賞するだけで終わらず、自分で発想構想したユニバーサルデザインをプレゼンテーション形式で発表し、自他の作品を相互評価することによって、生活を豊かにする造形や美術の働きについて理解を深めることができたと思われる。 発想構想の場面の発言 「従来のものよりも可愛くて工夫がしてあるものをデザインしたいなあと思った。」 「実用性だけではなく、見た目も楽しい方がいいので、しっかり考えたい。」 発表後の生徒の感想 「みんなの発表を聞いて、ユニバーサルデザインがもっと世の中に知れ渡り、生活がもっと良くなればいいなと思いました。」 「もっと誰もが分かりやすいように、地図や文字を大きくした方がいいと思いました。友達は、身体の不自由な方が使いやすいようにと、色々なユニバーサルデザインを考えていました。すごいなと思いました。」 このように美術の働きを理解し、心で感じたり考えたり、生活を豊かにするために行動をしたい、発信をしようとする態度を育むことができたと考える。

⑤　人にとって心地のよい環境をつくろう	生徒からはこの制作を行ったことで、「今まで何気なく過ごしていたが、家などの住まいや道路・お店などの公共のスペース、庭園や公園などの造られた自然は人が心地よく過ごせるように形や色彩を考えてつくられている。」という発言や「今後、部屋の模様替えや物の配置をする時に、美術で学んだ色の知識や空間のつくり方を役立てたい。」という意見も聞かれた。身の回りの生活環境が生活を豊かにする働きという視点からつくられているということに気付き、生活の中に活かしていこうとする気持ちが「美しいものを大切にし、生活の中で美術の表現や鑑賞に親しもうとする姿」につながる。 また、心地よい環境を発想し、制作することで、形や色彩が人間の気持ちや行動に及ぼす影響を考えることができた。このことは「生活を美しく飾り、豊かにする美術の働きに気付き、心豊かな生活を築こうとする姿」を育むことにつながる。 本検証授業では様々な素材を選択し、「心地よい環境」というテーマに沿うように制作を行った。生徒は小学校の時に造形遊びで様々な素材を選択し、体験活動を多く行っている。小学校の時は「制作意図に応じて素材を選択する意識」が薄かったが、中学校では自分のイメージをより具体的に形に表すために、「より深く考えて素材を選択するようになった」という意見が聞かれた。制作の冒頭でワークシートに「自分が心地よい環境」を書かせて、テーマをより明確にしたことにより、目的意識が強まったと考える。また、既存の環境ではなく、素材から着想を得て、新たな表現方法を模索することに楽しみを感じる生徒が見られた。自分の心の世界を形や色彩でつくっていく力がつき、小学校の時よりも更に美術の能力を高め「自然のもつ造形的な美しさや美術の文化遺産、作品のよさや美しさを積極的に味わおうとする姿」が養われたと考える。

２　研究のまとめ

本研究で、私たちは「小・中学校の連続性を考慮した授業」の検証を行った。

「小学校図画工作科で身に付いた資質や能力をより育成していく」という視点に立ち、９年間を系統的に捉えて題材設定、指導計画立案、指導の工夫等を行うことにより、生徒が身に付ける資質や能力をより深めることを確認できた。そして、小学校と中学校との連携した取組や、出身小学校の図画工作科担当教員からの聞き取り調査等により、系統的かつ連続性のある指導の在り方を考えることができた。

また、生徒が小学校図画工作科で学んできた内容や体験、身に付けてきた資質や能力を把握することにより、中学校３年間で、生徒にどのような資質や能力を身に付けていけばよいのかということを考慮しながら指導計画を立てることができた。また、小学校図画工作科で身に付けておくべき資質や能力が十分に身に付いていない生徒達に、復習や補充的な指導を展開することが可能となり、授業を組み立て、進めていくことができた。

上記のように、小・中学校の連続性を考慮しながら、さらに「生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業」の検証を行った。

授業の中で、美術が日常生活の中でどのような役割を果たしているのか、ということに触れたり、美術の意義やよさを理解させたりすることで、美術科の授業にとどまらず、よさや美しさを感じってくれる生徒が増えた。そして、形や色彩に、今まで以上に注目してくれる場面が増えた。美術作品や人工的なものだけではなく、自然のよさや美しさを感じたり、生活環境を美しく飾ったり、生活を豊かにするために行動したい、自ら発信しようとする態度もみられるようになった。

また、美術文化等の価値について考えさせることで、作品の継承や創造活動への関心を高め、自然や美術作品のよさや美しさを積極的に味わおうとしていた。

このように、美術科の授業や学校生活以外のところでも、生徒の変容を見たり、感じたりすることができたことは、この研究の成果であったと考える。

また、この研究を進める上で、授業の中で意見交換をしたり、相互鑑賞を行ったりするなど、生徒相互のコミュニケーションの場面を設定した。これらの活動を取り入れることで、自他を認め合う心情が深まり、更に美しいものを大切にし、表現や鑑賞に親しもうとする意欲や態度が育まれたと考える。

Ⅶ　今後の課題

「小・中学校の連続性に考慮した授業」を行うことは、小・中学校を系統的に捉え、学習内容の連続性に配慮した指導計画を立てることにつながる。

中学校３年間で、生徒にどのような資質や能力を身に付けさせるのか、ということを考えると、小学校図画工作科担当教員との連携は欠かせない。小学校で培った資質や能力をさらに伸ばすためにも、出身校の小学校や図画工作科担当教員との連携に努める必要があり、個々の中学校美術科教員の努力も必然となる。

しかし、中学校美術科の教員のみで小・中の連携を図っていくことは大変なことである。そこで、区市町村単位の教科研究会として連携を働きかけたり、学校をあげて連携を行ったり、更にそれらの成果を様々な研修会や、学校間での連絡会等で共有できる場を作っていけると効果的であると考える。私達教育研究員は今後、その要となる役割を果たす必要がある。

中学校美術科教員は、これまでも、教科の目標を達成するために、学習指導要領に基づいた授業を行ってきたが、生徒の中では、中学校卒業を節目に美術の学習から離れていく者もいる。そのことも踏まえ、より一層、授業を大切にするという強い認識をもつ必要がある。さらに、「生涯にわたり美術を愛好する心情」を育てるためには、今まで以上に授業の手だてや工夫を考えていかなければならないことを感じた。美術のよさを伝える場面は、学校行事や地域の方との連携の場面等、授業以外でも多々考えられる。美術科教員は、その具体的な方法を考え、生涯にわたり美術を愛好する人材を育てる担い手となることができる。少ない授業時数で十分な取組ができないと落胆するのではなく、アクションを起こしていくことも、美術教育の発展に大いに貢献できると考える。最後に、改めて生徒が心から作りたい、形や色彩で表現することが楽しい、あるいは、美しいものや美術作品を見たときに、よさや美しさを積極的に味わおうとする姿勢を養える授業を行うことが大事であり、最も重要なことであると考える。

平成２４年度　教育研究員名簿

中学校・美術

地　区	学　校　名	職　名	氏　名
◎八王子市	椚田中学校	主任教諭	◎畠山　　真理
中央区	日本橋中学校	教　諭	初鹿野　和子
墨田区	向島中学校	教　諭	奥井　　伸
北区	赤羽岩淵中学校	教　諭	小林　　明博
立川市	立川第五中学校	教　諭	菅野　　舞

◎世話人

〔担　当〕東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事　　松永　かおり
東京都教職員研修センター研修部教育経営課
指導主事　　明石　典子

平成２４年度
教育研究員研究報告書

中学校・美術

東京都教育委員会印刷物登録
（平成２４年度第２４３号
平成２５年　３月）

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８８２
印 刷 会 社　株式会社　イマイシ